

岩手山の火山活動解説資料（令和8年2月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

2025年10月以降みられていた、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられるひずみの変化は、1月頃から停滞しています。また、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示す地殻変動は、積雪のため確認はできないものの継続している可能性があります。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

令和6年10月2日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1-②③、図2～3）

火山性地震は2025年8月中旬以降、少ない状態であるものの、2024年前半以前よりは多い状態で経過しています。なお、山頂やや深部の低周波地震¹⁾は、2024年12月中旬頃から発生頻度がやや高い状態で経過しています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした。

1) 東岩手山では、山頂のやや深部（深さ6～9km付近）において、低周波地震の活動が認められます。この低周波地震の活動は、火山活動が静穏な状況下でもみられ、連続して発生することもあるため、噴火警戒レベルの判定基準に含めないこととしています。

・噴気など表面現象の状況（図1-①、図4～10）

柏台監視カメラ及び長山篠川原監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は10m以下で経過し、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

20日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、2025年3月の観測結果と比較して、一部の地熱域で温度上昇が認められましたが、大地獄谷の噴気や地熱域の状況に大きな変化はみられませんでした。岩手山山頂付近、黒倉山山頂、黒倉山東側崖面、西小沢では2025年3月の観測結果と比較して噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年3月分）は令和8年4月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイプ）」を使用しています。

・地殻変動の状況（図 11～12、図 14）

ひずみ計や GNSS 連続観測では、2025 年 10 月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられる地殻変動を観測していましたが、1 月頃から停滞しています。一方、山体西側のやや深部の膨張を示すひずみの変化は緩やかに継続しています。

○ 活動評価

JAXA の衛星「だいち 2 号」及び「だいち 4 号」の観測データを用いた国土地理院による干渉 SAR 解析²⁾ 結果（南行右観測、2021 年 8 月 1 日から 2025 年 10 月 3 日）では、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺において、衛星に近づく変化が見られました。大地獄谷周辺の変動は、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示していると考えられます。その後の状況は積雪のため確認できませんが、ごく浅いところの膨張は継続している可能性があります。

黒倉山付近を震源とする微小な火山性地震の発生頻度は 2025 年 8 月中旬以降、減少しているものの、上記のことから、大地獄谷周辺における地下浅部の熱水活動はやや高まった状態を維持している可能性があります。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね 2 km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒する必要があります。

2) SAR とは Synthetic Aperture Radar（合成開口レーダー）の略称であり、人工衛星や航空機などに搭載されたアンテナから電波を地表に向けて照射し、地表からの反射波を捉えることで、地形の形状及び性質を画像化することができます。干渉 SAR 解析とは同じ場所を計測した時期の異なる 2 回の SAR データの差をとる（電波を干渉させる）ことにより、地表の変動を詳細に捉える手法のことです。InSAR（Interferometric SAR）ともいいます。干渉 SAR 解析ではアンテナー地表間の距離変化量が観測地域で面的に得られます。

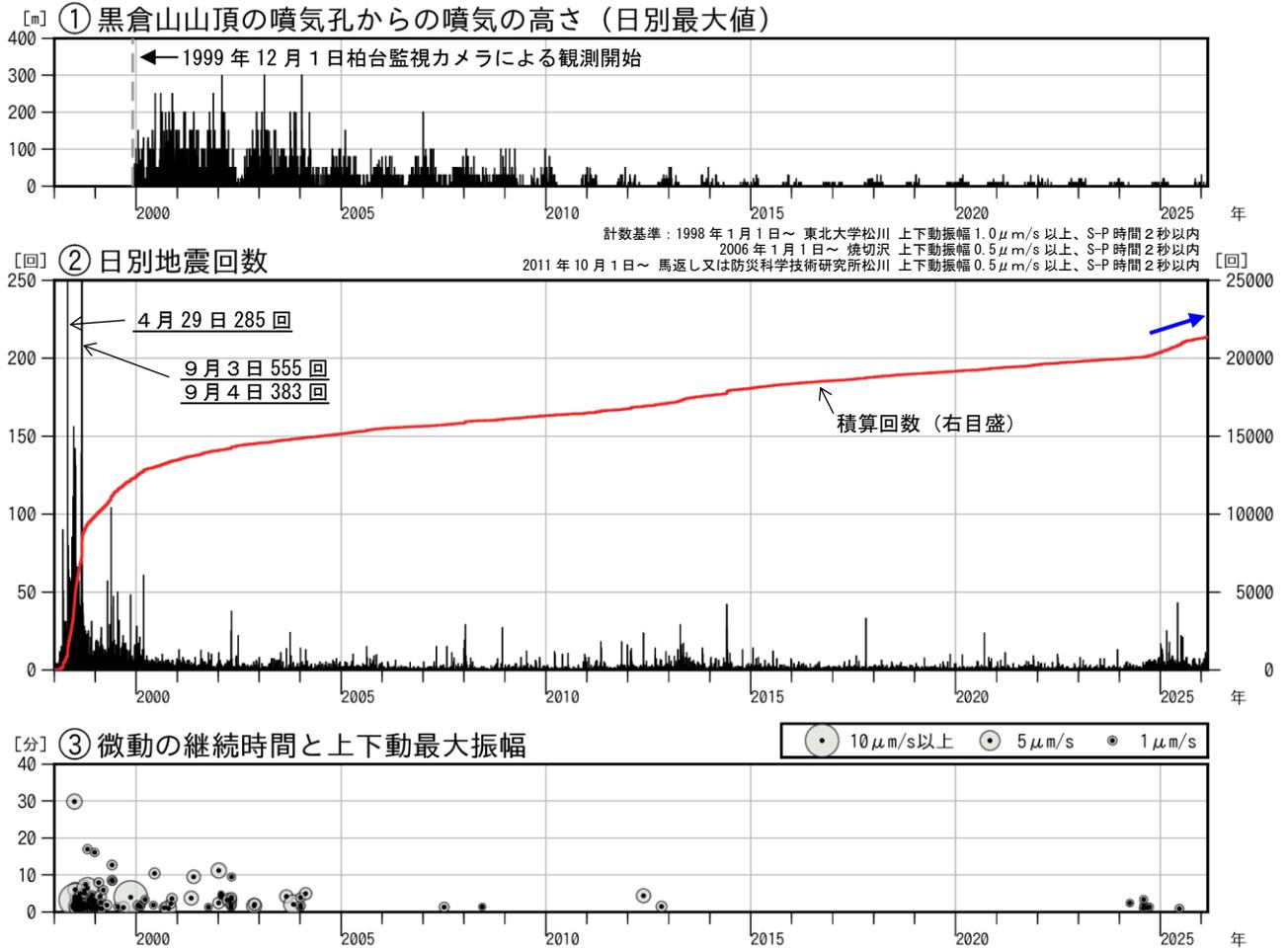


図1 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2026年2月）

②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
 （1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

火山性地震は2024年7月頃からやや多い状態で推移しています（②青矢印）。今期間は、火山性微動は観測されませんでした。

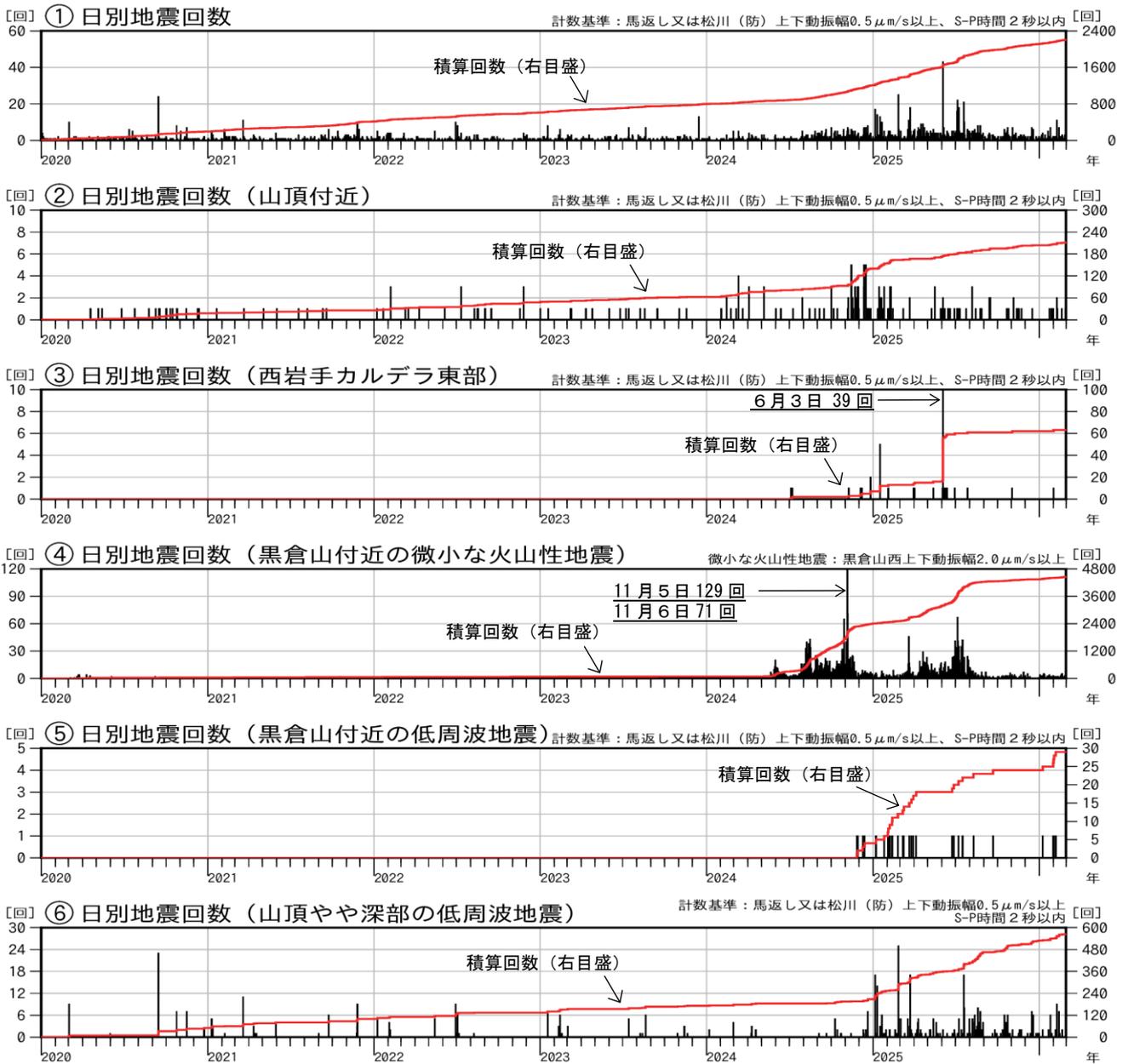


図2 岩手山 日別地震回数（2020年1月～2026年2月）

④黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別地震回数であり、①日別地震回数には含まれていません。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しましたが、引き続き2024年6月以前に比べて多い状態で経過しています（①）。

山頂付近及び西岩手カルデラ東部を震源とする火山性地震は、今期間少ない状態で経過しました（②③）。

黒倉山付近で2024年5月頃から発生している微小な火山性地震は、2025年8月中旬以降は少ない状態であるものの、2024年前半以前よりは多い状態で経過しています（④）。黒倉山付近の低周波地震は、引き続き観測されています（⑤）。

2024年12月中旬頃からは、山頂やや深部の低周波地震の発生頻度がやや高い状態で継続しています（⑥）。

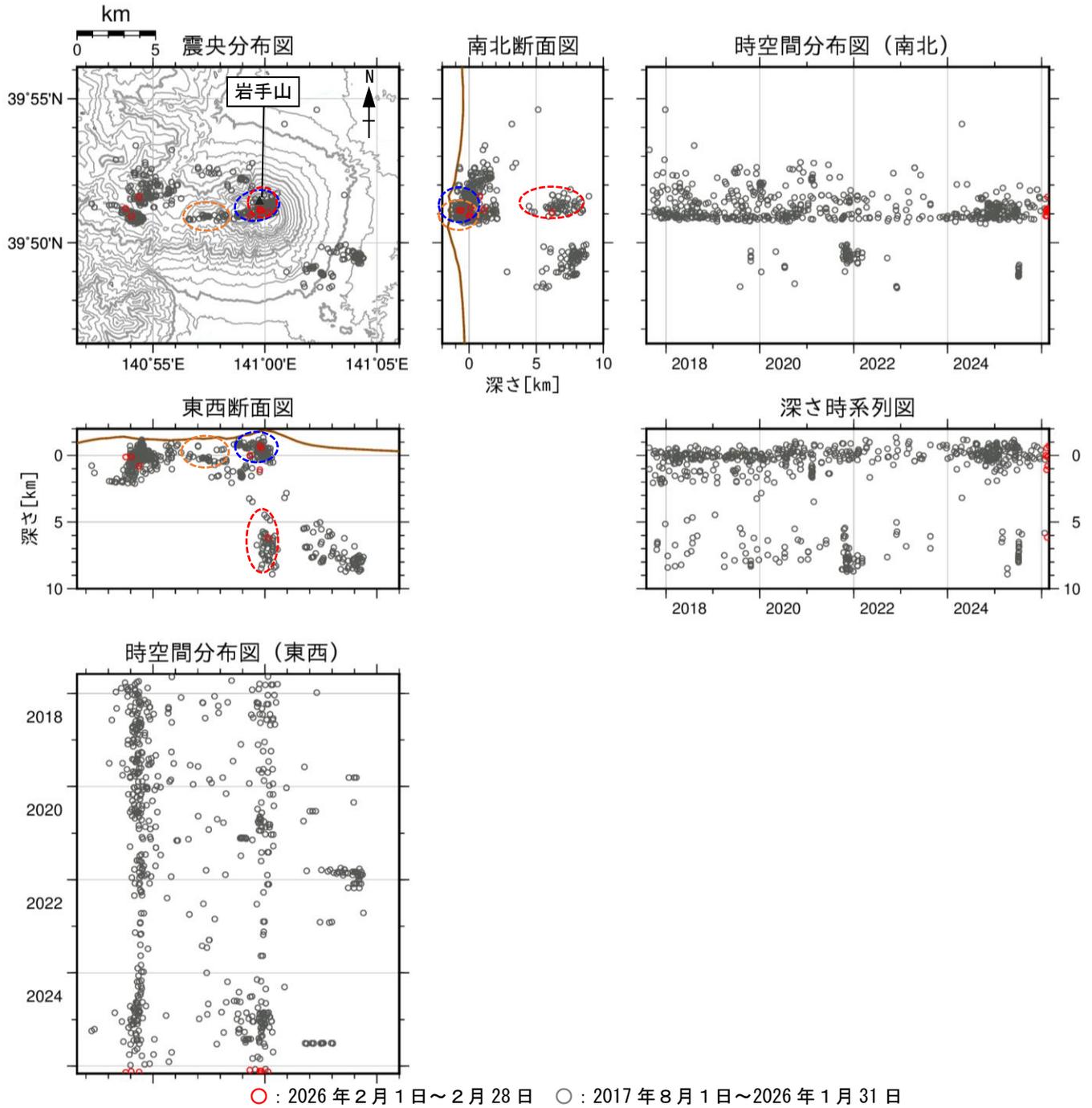


図3 岩手山 地震活動（2017年8月～2026年2月28日）

・青破線は「山頂付近」及び「西岩手カルデラ東部」、橙破線は「黒倉山付近」のおおよその領域を示します。赤破線の領域は「山頂やや深部」で発生する低周波地震の震源域を示します。

今期間、震源が求まった火山性地震は8回で、そのうち山頂付近では3回、西岩手カルデラ東部では1回及び山頂やや深部では1回でした。黒倉山付近で震源が求まった火山性地震はありませんでした。

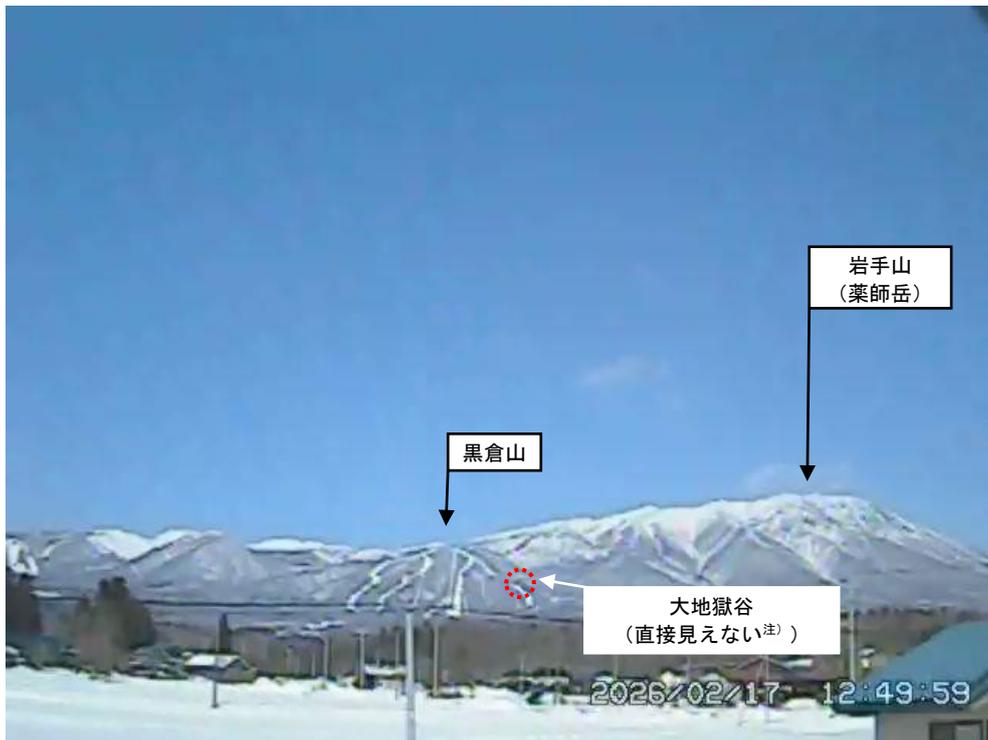


図4 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況

- ・上図：柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約7km）の映像（2月17日）です。
- ・下図：長山篠川原監視カメラ（黒倉山山頂の南約9km）の映像（2月17日）です。

注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに観測されます。

赤破線が大地獄谷の位置を示します。

柏台監視カメラ及び長山篠川原監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は10m以下で経過し、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

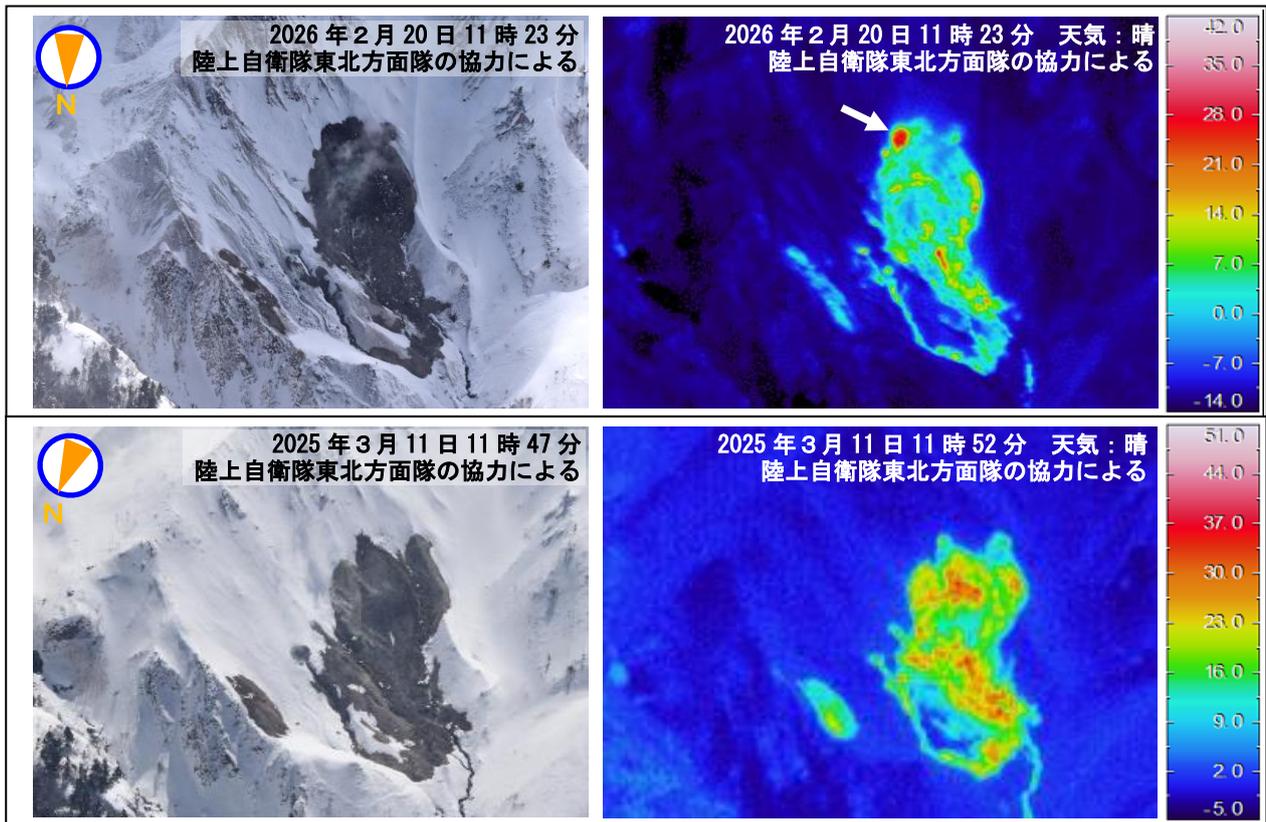


図7 岩手山 上空からの大地獄谷の状況と地表面温度分布

2025年3月の観測結果と比較して、噴気や地熱域の状況に大きな変化はみられませんでした。右上図中の矢印で示す一部領域で温度上昇が認められました。



図8 岩手山 上空からの大地獄谷付近の状況

2025年3月の観測結果と比較して、噴気や温水、融雪の状況に特段の変化は認められませんでした。大地獄谷周辺に、噴出現象を示す堆積物は認められませんでした。

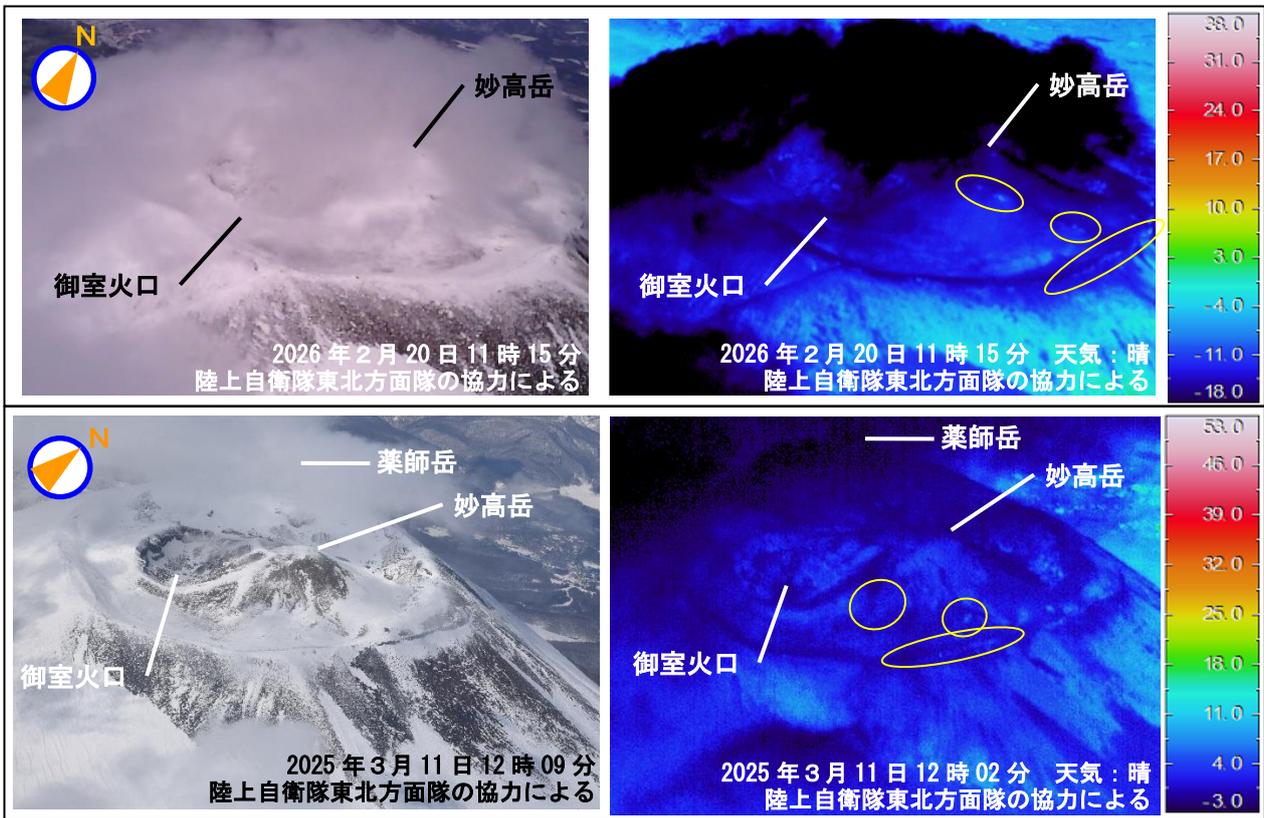


図9 岩手山 上空からの岩手山山頂の状況と地表面温度分布

※今回の観測では、山頂の一部が雲で覆われています。
 ※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

2025年3月の観測結果と比較して、地熱域（黄丸）の状況に特段の変化は認められませんでした。

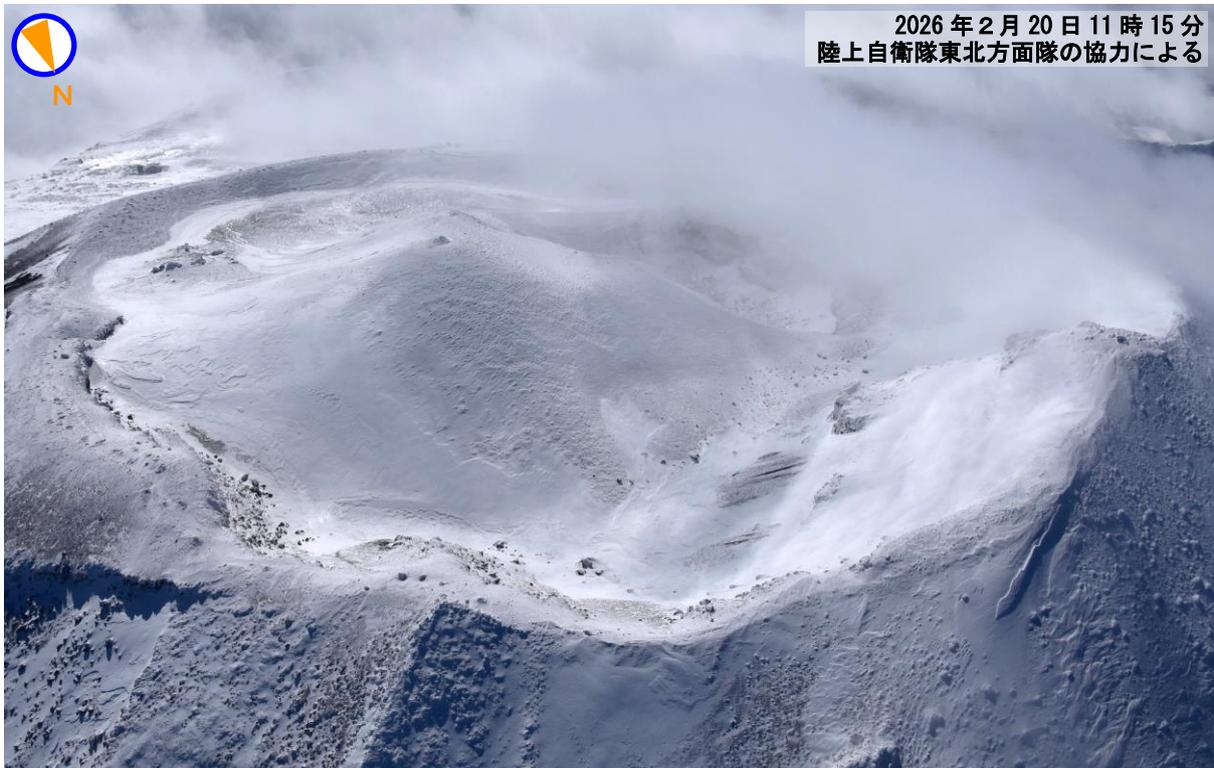


図10 岩手山 上空からの山頂火口原の状況

噴気は確認されず、2025年3月の観測結果と比較して、融雪の状況に特段の変化は認められませんでした。

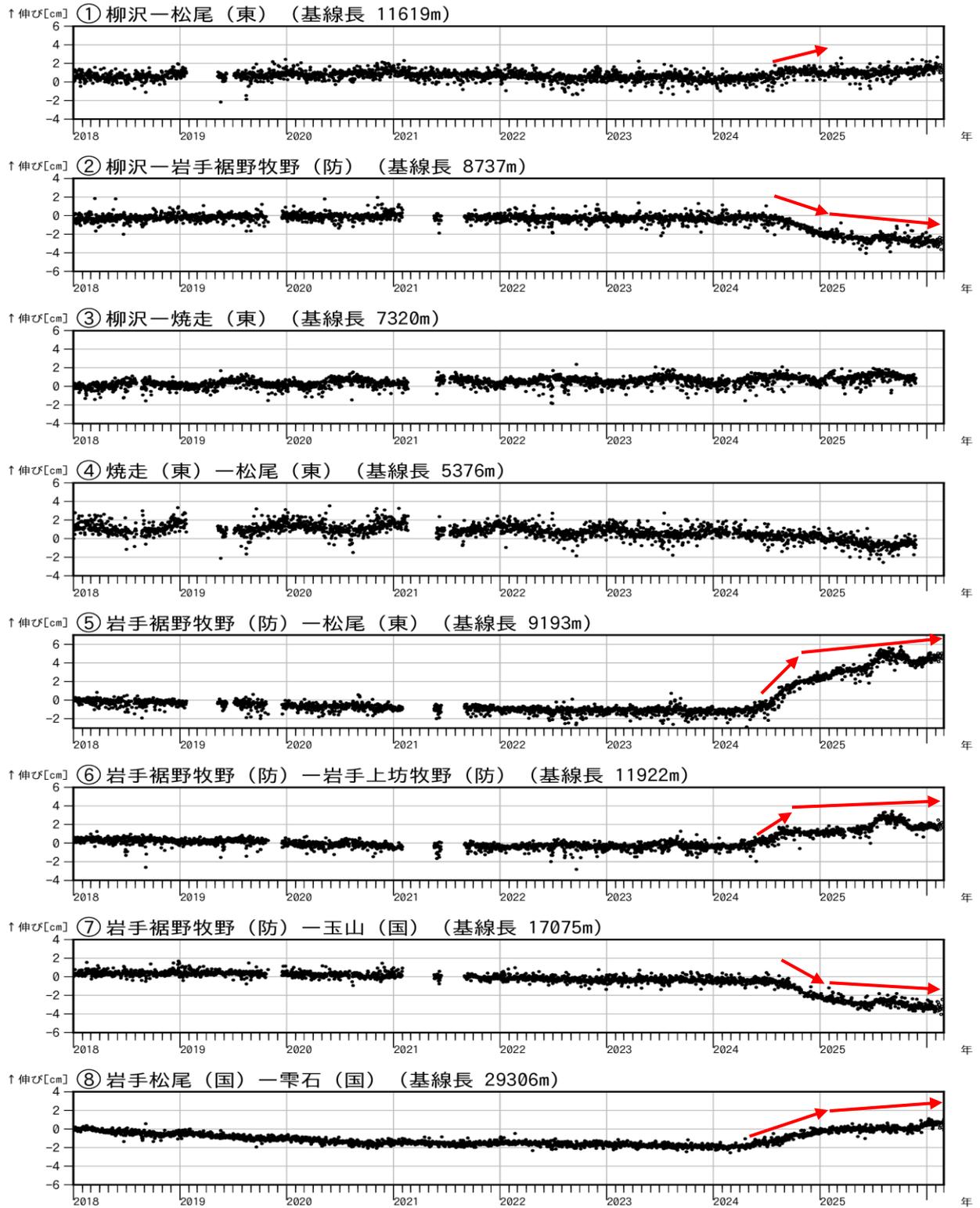


図 11 岩手山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年2月）

- ・①～⑧は図 14 の GNSS 基線①～⑧に対応しています。 ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学、（防）は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ・基線②、⑤、⑥及び⑦では、6月下旬から11月下旬まで岩手裾野牧野（防）観測点に起因する変化がみられます。
- ・2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震に伴うステップ状の変化が一部基線で認められます。

2024年4月以降見られている東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す基線長の変化は、基線⑤及び⑥で2024年後半から、基線②、⑦及び⑧で2025年以降、鈍化が認められますが、緩やかに継続しています（赤矢印）。

一部の基線（⑤、⑧）では、2024年12月頃から東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化がみられていましたが、1月頃から停滞しています。

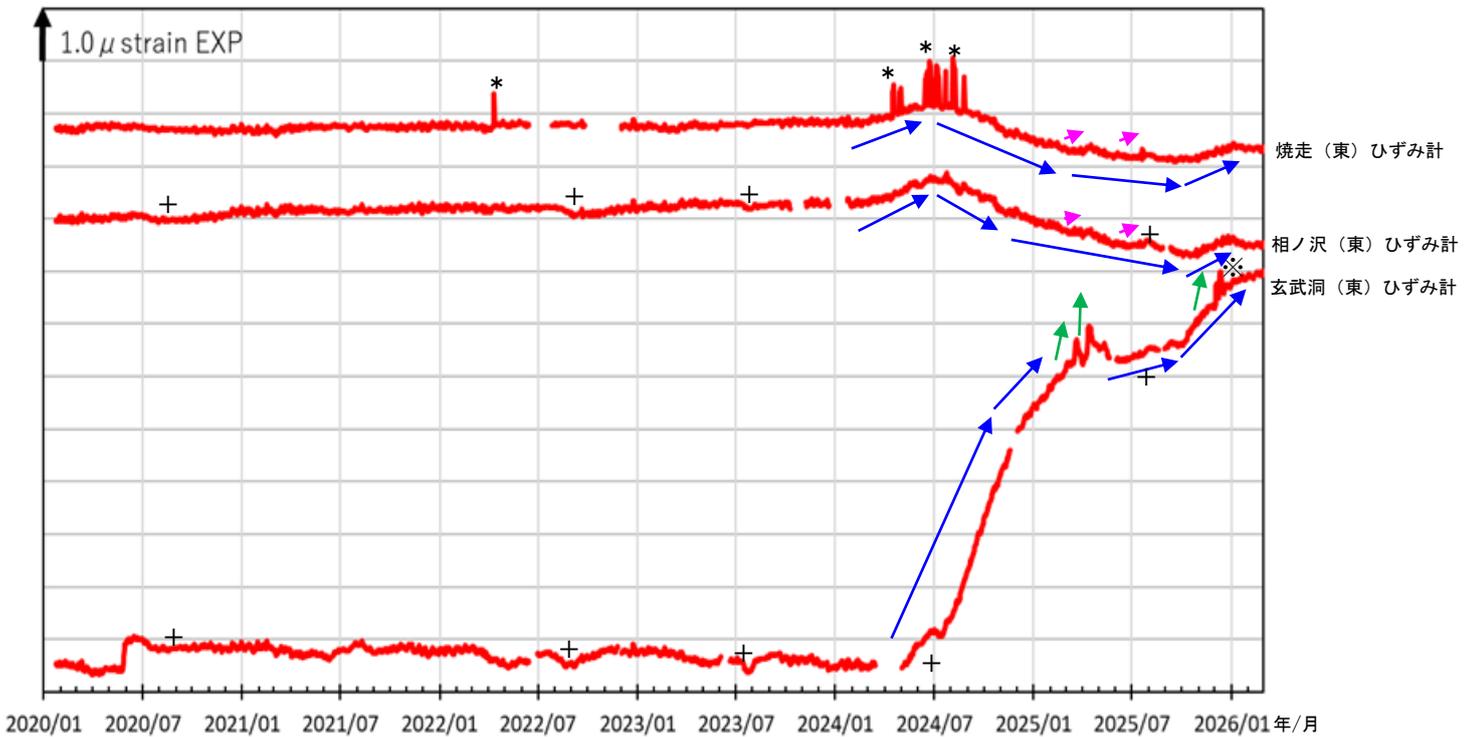


図 12 岩手山 ひずみ計（日値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況
（2020年1月～2026年2月）

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（東）は東北大学の観測点を示します。
- ・焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025年3月中旬から4月上旬と7月中旬から7月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
- ・玄武洞（東）のひずみ計では、2025年3月中旬、4月上旬及び12月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
- ・*：収録機器の不具合による変動です。※：遠隔地の地震による変動です。+：降水による影響の可能性がある変動です。

岩手山周辺のひずみ計では、2024年2月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す変化（青矢印）が認められます。

2025年10月以降、焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計でみられていた東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられるひずみの変化は、1月頃から停滞しています。

玄武洞（東）のひずみ計では、山体西側のやや深部の膨張を示すひずみの変化は緩やかに継続しています。

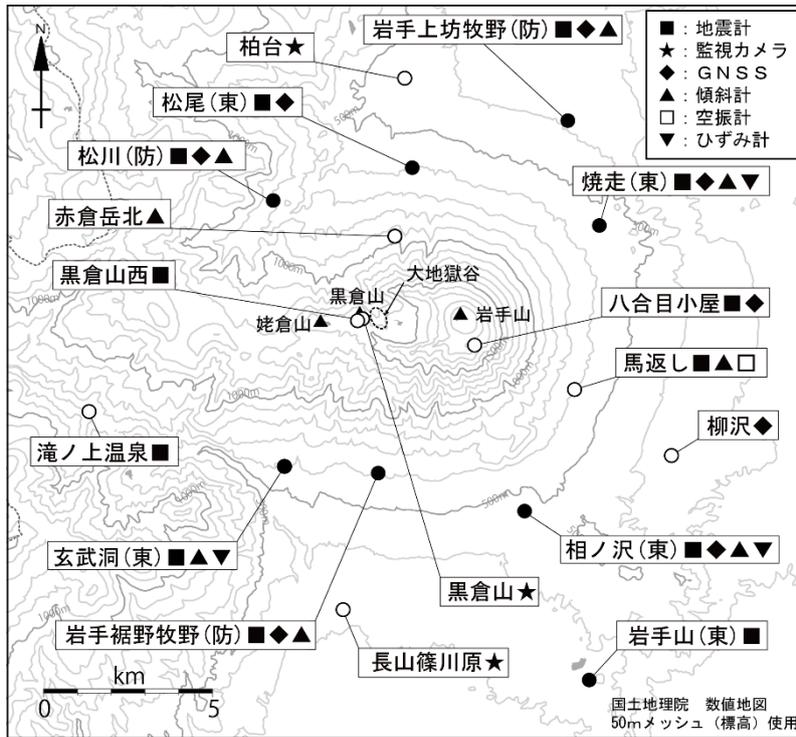


図13 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

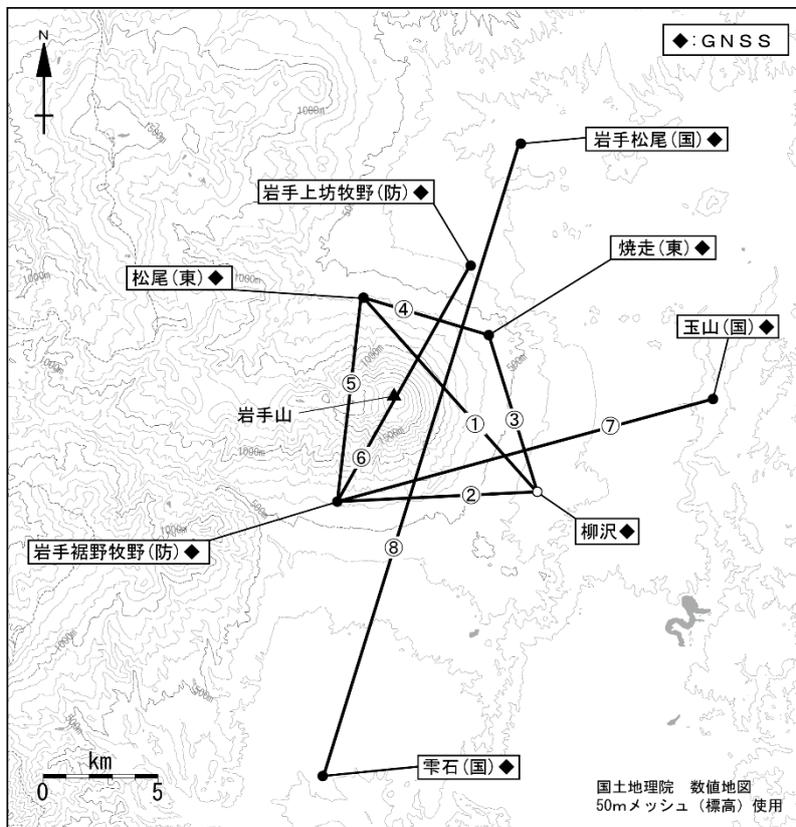


図14 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所